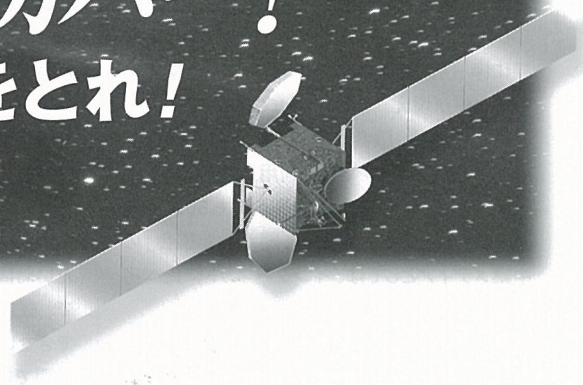


特集

日本の財産 スカパー! 東経110度に進路をとれ!

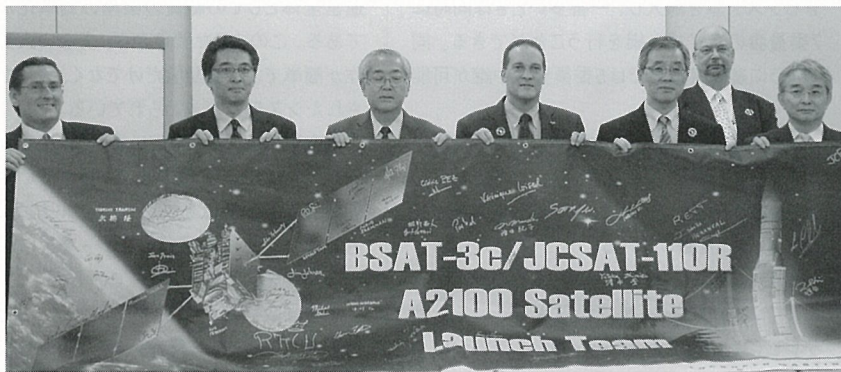


アジア最大の プラットフォーム

放送用のホシは東経110度CS2機と 124度、128度CSなど3機運用

月刊「ニューメディア」は創刊してから早いもので29年目を迎える。BSとCSの黎明期から発展期にかけて刊行を続けてきたことになる。月刊「ニューメディア」11月号では「日本の財産BS」特集をお届けした。12月号は、巨大な有料衛星放送のプラットフォームであるスカパー!の特集である。やはり、BS同様、特集タイトルを「日本の財産スカパー!」とした。日本の宇宙航空産業は戦後、大きなハンディキャップを背負いながらも跋行的に進展してきた。世界に誇るべき堂々たる財産とはいえないかも知れないが、傷つきながらも築いてきた財産である。スカパー!はホシの会社であり、衛星テレビのプラットフォーム運営会社でもある。ホシの部分にも焦点を当てながら、スカパー!の軌跡、スカパー!e2の魅力、BSスカパー!の戦略などをまとめた。

(文責:天野昭・本誌発行人)



2011年9月21日に行われたBSAT-3c/JCSAT-110Rのハンドオーバー式の模様。出席メンバーは(左から)ハワード・A・フロイド・ロッキード マーチン コマーシャル スペース システムズ プログラム・マネージャー、篠塚重隆・スカパーJSAT横浜衛星管制センター長、竹中一夫・B-SAT社長、ジョセフ・M・リッカーズ・ロッキード マーチン コマーシャル スペース システムズ社長、山崎収・B-SATプロジェクト・マネージャー、アーロ・A・ブラウン・ロッキード マーチン グローバル インコーポレーテッド 日本地区担当副社長、矢橋隆・B-SAT取締役

東経110度の インフラ磐石

BS×CSハイブリッド衛星BSAT-3c/JCSAT-110Rのハンドオーバー(管制引渡し)が、2011年9月21日16:15にB-SAT川口衛星管制センターで関係者出席のもとで行われた。

今回のハンドオーバーとは、軌道上での管制がロッキード・マーチン(LM)社からB-SAT川口衛星管制センターにバトンタッチされたことを意味する(JCSAT-